秦荘町・愛知川町 合併研究会だより

第５号
平成１５年
（２００３年）８月

発行 秦荘町・愛知川町合併研究会事務局（愛知川町役場３階）
〒529-1380　滋賀県愛知郡愛知川町大字愛知川７２番地
TEL0749-42-7671　FAX0749-42-7677
ホームページ http://www.hata-echi.jp/　Eメール gappei@hata-echi.jp

合併講演会アンケート調査結果と先進地視察研修報告

合併講演会アンケート調査結果報告

７月５日、１２日に開催しました秦荘・愛知川合併講演会参加者のみなさんに今後の事業推進に活用させていただくため講演会アンケートにお答えいただきました。その講演会アンケートの調査結果をお知らせします。

〔秦荘・愛知川合併講演会〕

秦荘会場　平成15年７月５日（土）
ハーティーセンター秦荘　大ホール
開始時間　午後７時45分
終了時間　午後９時10分

愛知川会場　平成15年７月12日（土）
愛知川町中央公民館　大ホール
開始時間　午後７時45分
終了時間　午後９時20分

★参加者数

単位：人

	秦荘会場	愛知川会場	計
住民	260	185	445
秦荘町職員	101	8	109
愛知川町職員	33	82	115
合計	394	275	669

☆合併講演会の案内方法は、両町各世帯へチラシの全戸配布、両町各種団体役員へ個別による案内書送付、ポスターの掲示、防災無線放送や有線放送による周知、ホームページ等による。

★アンケート回収率 63.4%

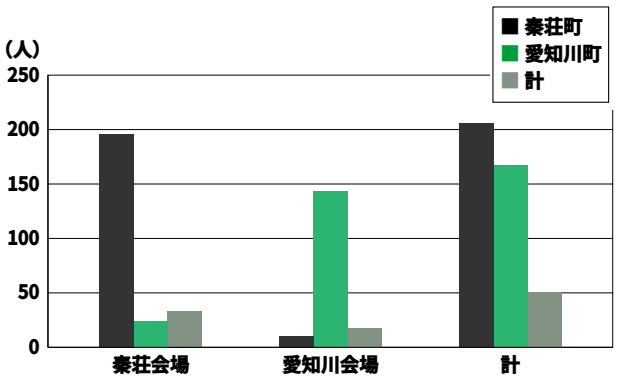
単位：人

	配布数	回収数	回収率 %
秦荘会場	394	253	64.2
愛知川会場	275	171	62.2
計	669	424	63.4

1 あなたのお住まいは

単位：人

	秦荘会場	愛知川会場	計
秦 荘 町	196	10	206
愛知川町	24	143	167
そ の 他	33	18	51
計	253	171	424

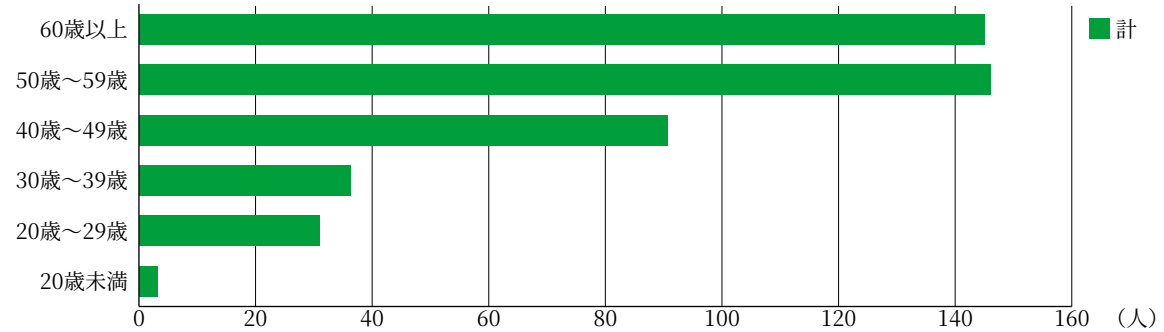


☆近隣の湖東町、彦根市、能登川町からの参加もあった。

2 あなたの年齢は

単位：人

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
秦 荘 町	2	9	12	39	71	73	206
愛知川町	0	7	11	34	57	58	167
そ の 他	1	13	11	12	9	5	51
計	3	29	34	85	137	136	424

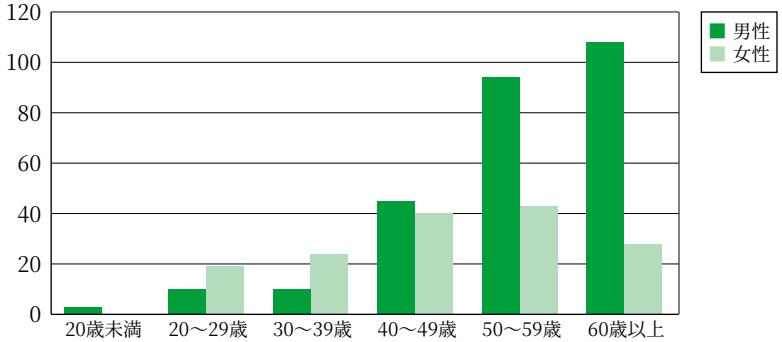


☆両町とも若年層の参加が少なく、50歳以上が6割以上を占めている。

3 あなたの性別は

単位：人

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
男 性	3	10	10	45	94	108	270
女 性	0	19	24	40	43	28	154
計	3	29	34	85	137	136	424



☆若年層では女性の参加が男性を上回り、高齢者になるほど男性の参加比率が高くなっている。

4 本日の織田直文先生の講演について

単位：人

	秦荘会場	愛知川会場	計	構成比%
1. とても参考になった	83	58	141	33.3
2. 参考になった	155	97	252	59.4
3. あまり参考にならなかった	9	12	21	5.0
4. その他	6	4	10	2.3

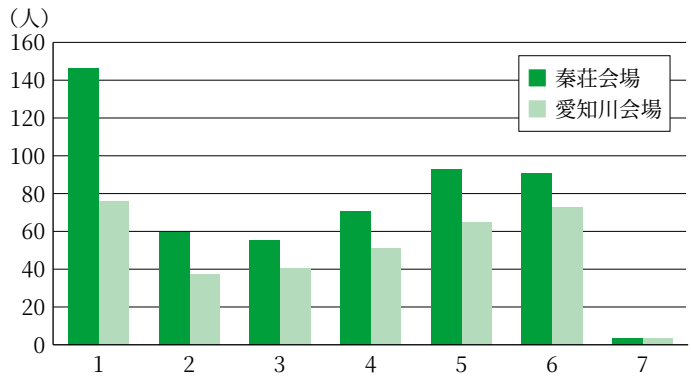
☆「とても参考になった」と、「参考になった」を合わせると約93%となった。

5 本日の講演をお聞きになって、今後の行政に最も期待することは何ですか

（○は2つまで）

単位：人

	秦荘会場	愛知川会場	計	順　位
1．日常の生活圏域に合った広範な公共施設利用や行政サービスが受けられるまち	137	71	208	1
2．広域的な視点に立った基盤整備（道路・交通等）が進んだまち	56	35	91	5
3．地域の存在感が向上し、地域のイメージアップが図られるまち	52	38	90	6
4．多様で高度な住民ニーズに応えられるまち	66	48	114	4
5．住民自治が確立し、市町村が自立できる能力をもったまち	87	61	148	3
6．行財政の効率化により財政基盤がしっかりしたまち	85	68	153	2
※ 7．その他	3	3	6	7
合　計	486	324	810	



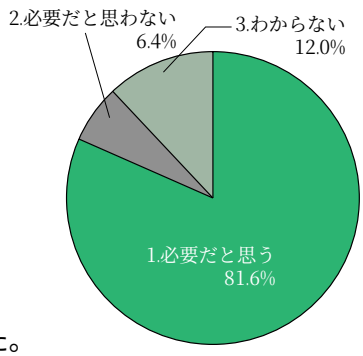
【※⑦その他の意見】
- **合併後の行政職員の人材育成に期待する**
- **教育活動に重点を置く**
- **より詳細な情報公開を期待する**
- **自然と調和のとれたまちづくり（2）**
- **文化や歴史を大切にし、安心して住めるまちづくり**

☆両町とも比率的に目立った差異はみられない。合併しても日常の生活圏の中で公共施設の利用や、行政サービスが手軽に受けられることを最も期待している人が多い。

6 市町村合併が必要だと思いますか

単位：人

	秦荘会場	愛知川会場	計	構成比%
1. 必要だと思う	207	139	346	81.6
2. 必要だと思わない	17	10	27	6.4
3. わからない	29	22	51	12.0
計	253	171	424	



☆「市町村合併が必要か」の問いに対して、81.6%の人が「必要だと思う」と回答し、合併は「必要ないと思う」と答えた意見は、わずか6.4%であった。

愛知川会場

推進意見（34件）

・すでに合併を完了している地域でも、実現に向けた経過年月が長期にわたっているので、合意までいかなくても大筋で決定できる合意事項があれば進めたらいい（3）
・両町がゆずりあいの気持ちをもち、小規模でも魅力のある町をめざして対等合併をしてほしい（5）
・調査検討ばかりしても時間のムダ、早急に進めてほしい（5）
・織田先生の現実論に賛成、決断して実行すべきである（5）
・早急に合併をして、行政サービスを安定させ、専門的なサービスも期待する（7）
・秦荘インター計画地点から、愛知川へ向けた道路整備を進めてほしい
・新町名は、歴史と伝統の残る名称を望む
・各取り組みの段階で、わかりやすく定期的に情報公開をお願いします（6）
・歴史的な英断を求める

慎重意見（22件）

・愛知郡4町の合併を捨てていない（3）
・市をめざした合併が、現時点では現実的に選択できないと講師が言われたが、それなら町当局は今日まで何をしてきたのか、もっと早くから理想の合併を目指す努力をすべきだった
・市を目指した5万人規模の合併を考えるべき、合併問題を町民に提示したのが遅かった
・秦荘町・愛知川町・能登川町が合併できれば理想の町づくりができると思う（4）
・愛知郡4町の合併プラス稲枝地域の合併が理想
・秦荘町との合併でどのようにして活気のある町づくりを目指すのかを具体的に示して、住民に議論させる必要がある（4）
・愛知郡全体が住民アンケートをもう一度実施して、意見集約すべきである
・合併は必要だと考えるが、2町合併では規模が小さい（5）

否定意見（7件）

・小規模合併は反対で、国の政策に基づく広域合併をめざすべきであると考え、できれば愛知郡が一体になることを望む
・小規模合併では住民のための合併だというメリットが見えてこない（4）
・地方分権の受け皿としては適正な規模といえない、行財政の効率化により財政基盤を安定させる適正な規模である10万人規模の合併が望ましい
・行政主導である

その他（16件）

・自治会単位での意見交換の場を開いてほしい
・なぜ、愛知郡が合併できなかったのか知りたい
・彦根市と合併してほしい
・愛知郡広域行政組合は今後どうなるのですか
・住民が合併のことを考える機会、場を与えてほしい（3）
・合併講演会の講師は、合併の実践をされた人の方がいい
・講師の立場が、秦荘町との合併推進に偏っている、公平な講師の講演をお願いしたい
・愛知川の治水対策を考えて、対岸との協調する施策がとれる合併も考える必要がある
・全住民の合併アンケートを実施してほしい
・講演会はわかりやすく大変勉強になった（3）
・住みよい町づくりを目指して、多くの住民の意見を取り入れてほしい（2）

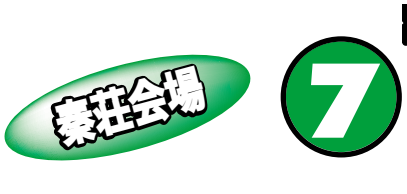
秦荘・愛知川合併講演会 アンケート調査結果まとめ

○講演会参加者等について

・講演会参加者数は、秦荘会場の参加者が多かったものの、全体としては低調であった。今後は、住民への周知方法や講演会の内容等を工夫していくことが必要である。
・アンケート調査の回収率は、63.4％とやや低く、多くの住民の意見を集約する貴重な手段であるアンケート調査の回収方法等についても今後検討する必要がある。
・参加者の年齢別・性別状況では、若年層および女性の参加が少なく、合併問題について若年層や女性の関心度を高めていくことが今後の課題である。

○講演内容等について

・織田先生の講演についての感想では、合併の基本的な意義や、小規模合併のメリットについてわかりやすく講演いただいたという感想を持たれた意見が多数よせられた。
・「あまり参考にならなかった」や「その他」の意見としては、2町合併よりも広範囲の合併を望む住民にとって、今回の講演内容では2町合併によるまちづくりの将来展望が見えてこないという意見も少し見受けられた。
・講演を聞いて今後の行政に最も期待する問いについては、合併しても日常の生活



推進意見（32件）
・2町が合併研究会で真剣に取り組みしっかりした骨格をつくってほしい
・不退転の決意で進められたい（3）
・住民ニーズに応えられる行政サービスの実現に積極的に取り組んでほしい（2）
・小規模合併で地方分権の受け皿の整備、新町の名称などの議論、魅力あるまちづくりのための具体策などを明らかにしてほしい
・合併後のビジョンを早く示し民意を聞き吸い上げてほしい（2）
・大きくなればなるほど住民サービスが低下すると思う、2町合併が一番の選択
・彦根圏は喜べない、2町合併を何としても早急に進めてほしい
・小規模合併ですが活力ある安心して生活できるまちづくりを望み、早く合併を願う
・2町が十分調整し納得のいく負担と隅々まで行届くサービスの配慮がほしい（2）
・小規模なりの良いところを前面に出せるような工夫をしてほしい
・あらゆる面において対等以上の合併を願う
・若者の住みつく、活力と特色あるまちづくりを望む
・合併後、資産の有効活用を明確に夢が見えるまちづくりを望む
・自主財源の確保策と産業の育成策等の検討を望む
・町の無駄が生じないよう十分研究してほしい
・現在は2町が合併し、10～20年後に考えるのも良いと思う（2）
・町民への詳しい説明はいつ頃になる予定ですか
・広域の設備等の後のゆくえや、第2段としての合併はあり得るか
・何年先のビジョンを考慮されているか
・今、現在の研究会レベルの進行具合で本当にいいのですか
・今は初期段階で将来は彦根市を中心とした合併を検討すべき
・内容や情報を速やかに知らせてほしい（5）

慎重意見（11件）
・将来のまちづくりを考えると小規模で心配している、十分な研究が必要（2）
・将来のまちづくりプランを住民に示し賛同を得て合併を判断する
・愛東、湖東を戻す努力を続けながら研究会の協議を望む
・合併は必要だと思うがもっと広範囲の合併を考えた方が良い（2）
・いずれ大同合併になると思うが2町では不安に思う（2）
・4町合併は難しいのか、南の方へはどうか
・高齢社会になった場合、福祉サービスが行届くか心配
・合併した場合メリット・デメリットをはっきりさせ良いまちづくりを

否定意見（5件）
・住民も努力をしないといけないと思うが、合併できないと思う
・今までどおりの行政を進めていくことが合併より大事だと思う（2）
・合併しなければ不利益を生ずることでは不平等であり納得できない
・地域がしっかり生活基盤を見つめられるよう学習会をしたほうがよい

その他（11件）
・調査検討内容の情報提供と討議の場がほしい
・広域行政にヒビが入らないよう確たる信念を持ってほしい
・広域行政サービスが今後継続可能か気がかりである（3）
・広域行政組合、又その新庁舎はどうなるのか
・愛知郡内で秦荘・愛知川の合併と同一歩調で進むべきとの意見があり無視され残念
・広域行政問題、学校の将来像、有線など前もって報告してほしい
・合併してどうなるのかわからない、ＪＡの合併でも住民はわかっていない
・住民アンケートを取る
・無駄な公園はいらない

圏のなかで公共施設の利用や行政サービスが手軽に受けられることに期待するという人が最も多い。このことは、2町による小規模合併の最大のメリットと受け止められたと思われる。

○市町村合併の必要性について

・必要だと思う人は81.6％で、大多数の人が必要と認識されており、必要でないと答えた人はわずか6.4％であった。
・参考に愛知川町が平成14年5月に実施した住民対話集会でのアンケート調査結果では、「合併は必要である」と回答された方と、「合併の必要はない」と回答された方はほぼ同数であったことを考えると、住民意識が変化してきたことが見受けられる。

○合併研究会への意見について

・合併研究会への意見として、2町合併を推進する意見が多数を占めた。
・慎重・否定意見としては、愛知郡の合併や、2町とその近隣地域との合併を推進する意見、広範囲の合併を期待する意見などに集約された。また、その他意見として愛知郡広域行政組合の将来を不安視する意見がよせられた。
・合併研究会では、この貴重な意見を十分認識するとともに、今後は、合併に向けた魅力あるまちづくりのための具体策を町民に示し、その内容やあらゆる情報を速やかに提供していきたい。

先進地視察研修結果報告

6月26日に愛媛県の内子町・五十崎町合併協議会に先進地視察研修を行いました。愛媛県は全国で一番合併協議が進んでおり、その中でもこの合併協議会は郡内の2町での合併を目指し、人口規模（約1万7千人）も類似しており、先進的に合併協議を進めておられます。規模の大きな市では都市開発型が主体で住民とのかかわりが希薄になる傾向が強いため、地域のくらしのパターンに合わせた合併を目指す考えで、「顔の見える範囲」の合併が大切であると話されました。その研修結果をお知らせします。

市町村合併先進地視察研修報告

日　時：平成15年6月26日（木）
視察先：内子町・五十崎町合併協議会
（愛媛県喜多郡内子町役場内）
応対者：河内会長、城戸事務局長、井上総務班長
参加者：研究会委員16名、研究会事務局4名

内子町・五十崎町合併協議会
河内会長より概要報告

愛媛県での合併は知事（2期目）が、元文部省の官僚で合併推進論者です。合併しなければもたないので郡単位で合併しなさいと、知事が先頭に立って旗を振ってきました。

合併しないところは泣きを見る、予算もつかないようなことで、愛媛県は全国的にも一番合併協議が進んでいます。そういったことで、私のところはおおよそ合併の枠組みは固まりました。

現在愛媛県は70市町村で、合併して市になるところもありますが、町は残り7つになります。私共の町は内子町、五十崎町で一緒になりまして人口17、000人ぐらいですから、町として残ります。

県は大洲市を中心としたところで1つになりなさいという指導です。しかし、私共の町もそれなりにまちづくりを進めて参りまして、ある面でいろいろと大勢の方に知ってもらえるようになりました。大きな市がまちを作っていくというのは、どちらかというと都市開発型といいますか、都市をもっと大きな都市に開発していこうというものです。中核都市構想というのもあります。しかし、私共の方は田舎町でありますから、わが町にある資源を掘り起こしながらまちを整え、環境を大事にしながら、キラリと光るまちをつくっていこうとしています。もちろん県が基本パターンとして出してくるのもよく理解できるのですが、われわれの地域にはわれわれの地域の暮らしのパターンというものがあります。ちょうどこの地域には3つの川が流れておりまして、その上流域の文化圏みたいなものをもっております。そういうものを大事にしながらまちを創っていきたいという住民がたくさんいます。このことを知事に申し上げた経緯がございます。

合併でいろいろともめたり問題を出しているのは、町名であったり、庁舎の位置で、五十崎町自身も町の名前は内子町が全国区でありますので、ある程度全国的に知れ渡っているということですから名前は内子町で、しかし庁舎については自分の町をということで進めていくことができないか。そうすれば五十崎町民もまとまると思うということですね。私は庁舎の位置はどこでもいいと思っています。町民はそうは思っていないと思いますが、内子町は人口が倍もあるのに名前はいいとして、「庁舎も内子町で」と町民は大分文句を言ったのですが、私自身は庁舎は職員が仕事をする場所ですから、中心になければいけないかどうかはそう問題ではないかと思っていました。しかし、そうなれば賛否両論があり、私共の町民というのは、大きいところへ引っ張り込まれるという合併はやめてもらいたいと思っています。自分たちが中心になって町をつくるというのが強かったのだと思います。いろいろあるけれど対等合併でいくと、大きいところが小さいところに譲る気持ちがなければ、うまくいかないというようなところがあります。

私のところは法定合併協議会の前に町名、庁舎の位置が決まったのです。ですから合併協議会を立ち上げまして第1回の会合でそれを決めました。それから多くの事務事業の調整はある意味事務的なことでありますので、似かよった行政をやっておりますから、順調にここまできたということだと思っております。現在70％～80％煮詰まっています。

国が定めた期限までに合併をやっていこうという方針でいますから、少しゆとりをもって来年の10月1日には合併しようということで、順調に進んでいます。

昭和の大合併も大変だったと聞いておりますが、町が一つになるということはいろいろやっていかなければなりませんが、大仕事だと思います。あとで町民がこんなはずじゃなかったということになりはしないか、私共はよく内容をみて、2町合併上等ということでやっております。私共は四国の片田舎で、それはそれなりに胸をはって頑張っています。

①内子町・五十崎町および内子町・五十崎町合併協議会の概要

○内子町・五十崎町の概要　－資料1－

内子町	人　口	11、237人
	世帯数	3、830世帯
	面　積	121、17㎢
五十崎町	人　口	5、720人
	世帯数	1、988世帯
	面　積	38、49㎢
合　計	人　口	16、957人
	世帯数	5、818世帯
	面　積	159、66㎢

○内子町・五十崎町合併協議会の概要　－資料2－

平成14年9月1日設置
構成員　30名
事務局　内子町役場内　6名体制

②合併に至った背景

○県から提示
基本パターン　大洲市・喜多郡を中心としたもの
参考パターン　小田川上流域文化圏のもの

○2町合併を選択した経緯
平成13年4月1日以降の2町合併の経緯　－資料4－

③今までの協議会における状況報告

ア.合併の方式、新町の名称および事務所の位置等の決定について
対等合併で、名称は内子町、庁舎位置は五十崎町ということが法定協議会前に大筋で決まっていた。

イ.協議会での決定方針等について
会議の議事は全会一致を原則とする。ただし、意見が分かれた場合は出席委員の3分の2以上の賛成をもって決する。

ウ.委員の選出および立場等について
1号委員…両町の長及び職員の代表各1名
2号委員…両町の議会議長及び議員の代表各1名
3号委員…両町の長が協議して定めた学識経験を有する者21名

エ.会議の公開方法について
原則公開とするものとする。ただし、委員の半数以上の賛成があるときは、公開しないことができるものとする。
第2項…必要に応じて定めた委員1名

オ.決定事項の住民への周知について
会議録の公開、協議会だよりの発行、ホームページの開設。

カ.役場職員の意識について
地域懇談会への参加、事務事業一元化説明会等への参加。

キ.専門部会の取り組み状況
5専門部会、その下に31分科会を設置し、1、300あまりの事務事業についてのすりあわせ作業を実施。事務事業の一元化についても実施。

ク.新町の建設計画の策定について
両町のまちづくりにかかわりのある業者と委託契約を締結する。
各課ヒヤリング、懇談会等を実施。

資料３「合併に至った背景」

○愛媛県は、平成13年3月「市町村合併推進要綱」を策定

基本パターンと参考パターンを明記
※基本パターン…1市4町1村(人口69,713人、面積561.86㎢)
※参考パターン…4町1村　(人口26,437人、面積419.29㎢)

○２町合併を選択した経過

1. 江戸時代頃、隣町の大洲市を中心とした大洲藩に属し、従来からこの２町を含めて「内山地区」と呼んでいた。
2. 昭和の大合併後、２回ほど合併の話が持ち上がっていた。
   ・昭和33年は、人口3万人以上は市となる特例により、「内山市」となる話が具体的に進むが、最終的に五十崎町の議会の同意が得られなかった。
   ・昭和51年は、五十崎町から申し入れがあったが内子町は断った。

資料4　「平成13年４月１日以降の報告」

日　時	内子町	五十崎町
平成13年３月	愛媛県が「市町村合併推進要綱」発表(「基本パターン」と「参考パターン」)	
平成13年４月１日	「町村合併調査係」設置・「町村合併調査検討班」組織	
平成13年５月23日	八幡浜地方局市町村合併検討協議会への参加	
平成13年６月11日	第1回八局・大洲市喜多郡町村合併検討部会(平成14年3月まで5回開催)	
平成13年６月13日	町村合併調査研究特別委員会(平成14年6月まで6回開催)	
平成13年７月18日	「喜多郡議員大会」・市町村合併の講演	
平成13年８月20日	内子町、五十崎町、小田町、広田村議会議員交流会	
平成13年８月30日		合併問題研究会を組織(平成14年2月まで6回開催)
平成13年９月７日	「香川県引田町・白鳥町・大内町合併協議会」先進地視察	
平成13年９月30日～平成14年１月23日		町づくり懇談会時合併説明会(38行政区対象)
平成13年11月６日	内子町議会全員協議会の開催	
平成13年11月12日～平成14年１月25日	地域づくり住民懇談会時合併説明会(18支分館対象)	
平成13年12月６日	内子町議会・五十崎町議会合併特別調査委員会開催	
平成14年１月16日	喜多郡助役・合併担当課長会の開催	
平成14年１月18日～平成14年２月８日	市町村合併に関する住民アンケート調査の実施	
平成14年２月13日～平成14年２月20日		合併に関する住民説明会の開催(6回)
平成14年２月22日	市町村合併に関する研修会の開催（町民等参加）	
平成14年２月27日	「香川県引田町・白鳥町・大内町合併協議会」先進地視察	
平成14年３月１日～平成14年３月20日		合併問題アンケート調査の実施
平成14年４月18日	内子町議会・五十崎町議会合併特別調査委員会の開催	
平成14年５月１日		五十崎町議会合併特別委員会の開催(2回)
平成14年６月３日	大洲市喜多郡助役・合併担当課長会の開催	
平成14年６月４日		五十崎町議会全員協議会の開催
平成14年６月14日	内子町議会全員協議会の開催	
平成14年７月５日		五十崎町及び内子町合併に関するパンフレット配布
平成14年７月10日～平成14年７月12日		五十崎町及び内子町合併に関する住民説明会(3回)
平成14年７月16日		五十崎町議会全員協議会の開催
平成14年７月19日～平成14年 ７月26日		五十崎町及び内子町合併に関するアンケート調査の実施
平成14年７月26日	内子町議会全員協議会の開催	
平成14年７月30日	市町村合併に関する説明会(自治会長対象)	五十崎町議会全員協議会の開催
平成14年８月２日～平成14年８月17日	市町村合併に関する説明会(18自治会対象)	
平成14年８月20日	内子町議会全員協議会の開催	
平成14年８月29日	内子町議会臨時会(法定合併協議会設置議案を議決)	五十崎町議会定例会(法定合併協議会設置議案を議決)
平成14年８月30日	内子町・五十崎町合併協議会の規約に関する協議書の調印式	

資料1　「内子町・五十崎町合併協議会の概要」

区　分	内子町	五十崎町
面　積	121.17㎢	38.49㎢
人　口	11,237人(平成12年国勢調査)	5,720人(平成12年国勢調査)
世帯数	3,830世帯(平成15年1月末住民基本台帳)	1,988世帯(平成14年12月末住民基本台帳)
職員数	156名(平成14年9月1日現在)	90名(平成14年9月1日現在)
地　形	県都松山市より南西約40kmに位置し、約70%を山林が占める中山間地の農山村のところである。町内を一級河川である肱川の支流・小田川や中山川、麓川が流れている。	県都松山市より約40kmの喜多郡のほぼ中央部に位置している。町の中央部を一級河川の小田川が流れ、両岸に耕地が広がっている。標高は平坦部で40m、山間部で200～600mのところにある。
交　通	町の中央部を国道56号や379号が交差し、JR内山線が走る。また、四国縦貫自動車道路も開通し南予の交通の要衝である。	町の北部を国道56号とJR内山線、四国縦貫自動車道路が平行して通過している。
歴　史	江戸末期から明治期にかけて、全国でも有数の木蝋の生産地として栄えた。また、四国遍路道など交通の要衝のまちとして栄えた。昭和30年の「昭和の大合併」で内子町・五城村・大瀬村・立川村・満穂村が合併して現在の内子町が誕生した。	江戸時代より大洲和紙の産地として隆盛を極め、昭和初期から46年まで大久喜鉱山(銅)が軍用需要にあわせて繁栄した。「昭和の大合併」といわれている昭和29年に五十崎町・天神村・御祓村が合併して現在の五十崎町が誕生した。
町　勢	木蝋の生産地であった繁栄を今に伝える歴史的環境が比較的多く残されていたので、昭和51年より町並み保存運動に取り組み、昭和57年「国の重要伝統的建造物群保存地区=八日市護国地区」が選定され、平成2年、上芳我家・本芳我家・大村家が「国の重要文化財」に、平成3年、製蝋用具1,444点が「国の重要有形民俗文化財」に指定された。この運動を農山村部に広げようと、村並み保存運動を展開。また、平成５年の第３次内子町新総合計画では、身の回りの環境から、広く地域の環境問題までを視野に入れて自然と仲良くつきあえる町民の暮らしを考えようと「エコロジータウン・うちこ」をキッチフレーズに推進し、2001年からの総合計画では「ともにつくるエコロジータウンうちこ」に改め、推進している。	現在の基幹産業は農業で農地の整備保全、農道整備等の基盤整備を進めるとともに、経営体質の強化や後継者育成に取り組んでいる。豊かな水と森林を巧みに利用し、和紙づくりが発展、現在、業者数は減少したが規模・品質ともに日本一の手漉き和紙を誇るまでに成長した。また、町内を流れる小田川の清らかな流れを守り次代につなげていくため建設省の「ふるさとの川モデル事業」の指定を受け、自然環境を残したまま河川改修を行い「いかざき小田川原っぱ基金」制度も実施し町民ぐるみで川を守っている。21世紀は、環境と福祉、また人権の世紀といわれる中、「人☆きらり自然・産業・暮らし輝くいかざき」を基本理念に、町民の皆さんが生き生きと輝き、住民参加のまちづくりを進めている。

資料２　「内子町・五十崎町合併協議会の概要」

・関係町　喜多郡内子町、五十崎町の2町
・設置日　平成14年９月１日(平成14年８月29日各町議会議決)
・役　員　会　長　河内紘一(内子町長)
　副会長　宮岡廣行(五十崎町長)
・構成委員　規程第１項第１号委員…町長及び助役
　規程第１項第２号委員…議長及び議会代表
　規程第１項第３号委員…学識経験者
　規程第２号委員……八幡浜地方局総務福祉部長(愛媛県)
　(計:30名)
　顧問：愛媛県議会議員（1名）
・事務局　住所：愛媛県喜多郡内子町大字内子甲780番地
　内子町役場（４階）
　http://www.uchiko-ikazaki.com
・職員体制　事務局長:１名(内子町)
　事務局次長:１名(五十崎町)
　調整班長:１名(五十崎町)
　調整班員:１名(内子町)
　総務班長:１名(内子町)
　総務班員:１名(五十崎町)

先進地視察研修報告まとめ

合併協議会の先進地視察研修については、２町の合併で人口規模が約２万人程度であり、既に合併協議会を発足し、合併協定項目をほぼ確認され、合併期日を法期限内に設定されている協議会として、愛媛県内子町・五十崎町合併協議会を視察することになった。

当協議会は愛媛県の南西地域の内陸部に位置し、県都松山市へ約40kmの地点にある。

２町域の７割を占める内子町は、小田川、中山川、麓川の３つの流域に沿って集落が形成され、中心部は交通の要衝となってきた。市街地には江戸から明治にかけて木蝋生産で栄えた歴史的町並みが、昭和57年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」として選定を受けて以来、独自の歴史的景観、文化を次代に残し得るまちづくりを進めてきた。

また、平成５年からは町並み保存運動を展開し、内子座などを中心とした町並み観光から、石畳の宿など農山村のふるさとのたたずまいを活かした個性的な交流施設の整備を進め、近年は50万人を超える来街者が訪れる県内でも屈指の観光地となっている。

一方、五十崎町は周囲を緑なす山々で囲まれた美しい田園地帯を形成しており、大洲市との境をなす神南山は町のシンボルともいえる山であり、山麓にはふるさと森公園が整備されている。また、和紙づくりの歴史は古く、わが国の代表的な手漉き和紙の地位を確立してきた。町の中心を貫流する小田川は自然環境に配慮した護岸整備がなされ、その広い河川敷は全国的に有名な大凧合戦の会場となっている。

両町の境には、かつて山城があった小高い丘があり、龍王公園として親しまれている。平成14年には龍王トンネルの開通によって両町を結ぶ新しいパイプが誕生し、一体性は一層強まってきた。

両町の合併の歴史を見ると、内子町は昭和30年に５町村が合併し誕生した。
五十崎町は昭和29年に３町村が合併して誕生した。両町は合わせて内山地区と呼ばれてきたように、その一体性が強く、歴史的にもまとまった文化圏を形成し、独自のまちづくりを展開されてきた。過去においても合併が議論されたこともあり、今回それが現実のものになりつつある。

今後の研究会開催予定

第８回秦荘町・愛知川町合併研究会

日　時　9月5日(金) 午後２時から５時まで

場　所　愛知川町役場　3階　第3会議室

合併研究会は傍聴できます

合併研究会は、公開を原則としています。どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。

傍聴を希望される方は、会議開催予定時刻の15分前までに受付を済ませてください。傍聴人は先着順となっていますが、定員（20名）を超えた場合は抽選となります。

2町のうごき（平成15年7月1日現在）

町名	男性	女性	人口	世帯数
秦荘町	3,839	4,076	7,915	2,104
愛知川町	5,770	5,724	11,494	3,920
合計	9,609	9,800	19,409	6,024

※人口、世帯数は外国人登録者も含めています。

合併に関するお問い合わせ先

秦荘町・愛知川町合併研究会事務局
(愛知川町役場３階)
〒529-1380
滋賀県愛知郡愛知川町大字愛知川72番地
TEL0749-42-7671　FAX0749-42-7677
e-mail　gappei@hata-echi.jp

(２町の合併担当窓口)
秦荘町総務課
〒529-1234
滋賀県愛知郡秦荘町大字安孫子825番地
TEL0749-37-8050　FAX0749-37-4192
e-mail　soumu@town.hatasho.shiga.jp

愛知川町総務課
〒529-1380
滋賀県愛知郡愛知川町大字愛知川72番地
TEL0749-42-7680　FAX0749-42-6090
e-mail　echigawa@town.echigawa.shiga.jp

お詫びと訂正
研究会だより第３号４ページの「２町の概要シリーズ２」の「４．国民健康保険の状況」の表中、表下の「賦課限度額」は「賦課限度額」の誤りでしたので訂正しお詫びいたします。

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK TM